

## 第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

当座預金	受取手形	売掛金	前払金	貸付金
未収金	立替金	他店商品券	仮払金	支払手形
買掛金	借入金	未払金	前受金	預り金
商品券	仮受金	貸倒引当金	引出金	売上
受取手数料	受取利息	有価証券売却益	仕入	貸倒引当金繰入
貸倒損失	租税公課	旅費交通費		

- 沖縄商店に対して商品¥35,000を注文し、手付金として¥20,000の小切手を振り出して渡した。
- 出張中の従業員から当座預金の口座に¥92,000の入金があった。このうち、¥28,000については、得意先奈良商店から注文を受けたさいに受領した手付金であることが判明しているが、残額¥64,000の詳細は不明であった。
- 個人商店である兵庫商店は、営業用店舗の固定資産税¥260,000と事業主の所得税¥410,000を当座預金の口座振替により納付した。
- 得意先の宮崎商店が倒産したため、同商店に対する前年度発生の売掛金¥70,000が回収不能となり貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高が¥45,000あった。
- 広島商店から商品¥20,000を仕入れ、代金のうち¥15,000については、売掛金のある得意先である岡山商店を名宛人とする為替手形を振り出し、岡山商店の引受けを得て広島商店に渡し、残額は掛けとした。

### 1.の解き方

- 『小切手を振り出し』＝当座預金で支払った。右に書く。  
/ 当座預金 20,000
- 『手付金を支払った』＝前払金。反対側に書く。  
前払金 20,000 / 当座預金 20,000

※商品が届いたときに、仕入の仕訳を行う。注文しただけでは、仕入の仕訳をしない。

### 4.の解き方

- 売掛金が回収不能となったので、売掛金を減らす。右に売掛金を書く。  
/ 売掛金 70,000
- まず、貸倒引当金を取り崩す。足りない分は貸倒損失。反対側に書く。  
貸倒引当金 45,000 / 売掛金 70,000  
貸倒損失 25,000

### 2.の解き方

- 当座預金が増えたので、左に当座預金を書く。  
当座預金 92,000 /
- 『手付金を受け取った』＝前受金。残額は不明であるため、仮受金とする。反対側に書く。  
当座預金 92,000 / 前受金 28,000  
仮受金 64,000

### 5.の解き方

- 商品を仕入れたので、左に仕入を書く。  
仕入 20,000 /
- 代金の支払方法  
『為替手形』の『振り出し』＝「売掛金」を右に書く。  
また、残額を買掛金で支払うので、右に書く。  
仕入 20,000 / 売掛金 15,000  
買掛金 5,000

### 3.の解き方

- 当座預金が減ったので、右に当座預金を書く。  
/ 当座預金 670,000
- 『店主』のために店のお金を使った場合、引出金を使う。  
固定資産税は、租税公課を使用する。  
店主の負担分 → 引出金 410,000  
お店の負担分 → 租税公課 260,000  
引出金 410,000 / 当座預金 670,000  
租税公課 260,000

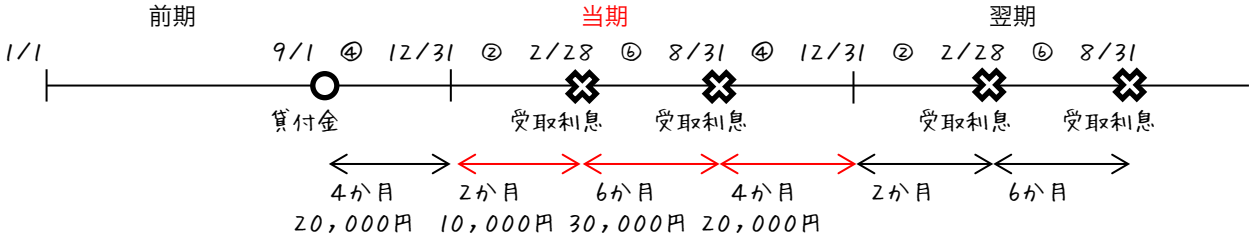
第2問 (10点)

取引先に対して、昨年の9月1日に¥1,200,000を、期間2年、年利率5%、利払日2月および8月末日の条件で貸し付けた。当期中の受取利息に関する諸勘定の記入は、次の通りであった。各勘定に記入された取引等を推定し、イ～ホには適切な語句を、a～eには適切な金額を記入しなさい。なお、利息は利払日にすべて現金で支払われている。

会計期間は、1月1日から12月31日までの1年間とする。未収利息は、月割計算によって求めなさい。

解き方

経過勘定の問題が出た場合、下書き用紙に線表を書いて、状況を整理しよう。



$1,200,000 \times 5\% \div 12 \text{ か月} = 5,000 \rightarrow 1 \text{ か月で } 5,000 \text{ 円の利息がもらえる}$

●前期末	未収利息	20,000	/	受取利息	20,000
①当期首	受取利息	20,000	/	未収利息	20,000
②2/28	現金	30,000	/	受取利息	30,000
③8/31	現金	30,000	/	受取利息	30,000
④当期末	未収利息	20,000	/	受取利息	20,000
⑤損益振替	受取利息	60,000	/	損益	60,000

▼仕訳を書いたら、勘定に埋めていく。

受 取 利 息						未 収 利 息					
1/1	(未収利息)	(20,000)	2/28	現 金	(30,000)	1/1	前期繰越	(20,000)	1/1	(受取利息)	(20,000)
12/31	(損 益)	(60,000)	8/31	"	(30,000)	12/31	(受取利息)	(20,000)	12/31	(次期繰越)	(20,000)
			12/31	(未収利息)	(20,000)			(40,000)			(40,000)
		(80,000)			(80,000)						
損 益											
			12/31	(受取利息)	(60,000)						

※計算チェック

- ☐ 損益に振り替える受取利息が、 $5,000 \times 12 \text{ か月} = 60,000$  と一致しているかを確認する。
- ☐ 未収利息が、前期繰越と次期繰越が同じ金額かを確認する。

第3問 (30点)

次の(A)および(B)の資料にもとづいて、答案用紙の平成25年1月31日の合計残高試算表を作成しなさい。なお、当店は資本の引出しについては、引出金勘定を用いて処理している。

(A) 前期末の貸借対照表

貸 借 対 照 表			
平成24年12月31日			
資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	101,000	支 払 手 形	136,000
当 座 預 金	255,000	買 掛 金	310,000
受 取 手 形	152,000	前 受 金	31,000
売 掛 金	228,000	貸 倒 引 当 金	17,000
商 品	200,000	備 品 減 価 償 却 累 計 額	92,000
備 品	250,000	資 本 金	600,000
	1,186,000		1,186,000

(B) 平成25年1月中の取引

1. 現金取引

(1) 収 入

- ア. 現金売上 ￥85,000                      イ. 当座預金からの引出 ￥78,000
- ウ. 売掛金の回収 ￥15,000                      エ. 商品の手付金の受領 ￥13,000

(2) 支 出

- ア. 給料の支払 ￥79,000                      イ. 消耗品の購入 ￥17,000                      ウ. 当座預金への預入 ￥39,000
- エ. 電話料金の支払 (ただし、40%は店主家計の利用分) ￥8,000                      オ. 現金仕入 ￥18,000
- カ. 家賃の支払 ￥23,000

2. 当座預金取引

(1) 増 加

- ア. 売掛金の回収 ￥20,000                      イ. 現金の預入 ￥39,000                      ウ. 手形代金の取立 ￥37,000
- エ. 店主からの追加元入 ￥100,000

(2) 減 少

- ア. 小切手振出しによる仕入 ￥16,000                      イ. 買掛金の支払 ￥110,000
- ウ. 手形代金の決済 ￥92,000                      エ. 現金の引出 ￥78,000

3. 商品売買取引

(1) 仕 入

- ア. 現金仕入 ￥18,000                      イ. 小切手振出しによる仕入 ￥16,000
- ウ. 掛仕入 ￥91,000                      エ. 約束手形振出しによる仕入 ￥9,000
- オ. 仕入値引 ￥2,300 (掛代金から控除)

(2) 売 上

- ア. 現金売上 ￥85,000                      イ. 手付金を受け取っていた得意先への商品引渡 ￥36,000
- ウ. 掛売上 ￥132,000                      エ. 得意先が振り出した約束手形の受入による売上 ￥22,000

4. その他の取引

- ア. 約束手形の受入れによる売掛金の回収 ￥96,000
- イ. 買掛金支払のために裏書譲渡した約束手形 ￥44,000
- ウ. 買掛金支払のために振り出した約束手形 ￥26,000
- エ. 前期に生じた売掛金の貸倒れ ￥12,000
- オ. 備品の購入 (代金は来月13日支払予定) ￥150,000

仕訳

① 現金取引

現	金	191,000	売	上	85,000	★
			当座預金	金	78,000	★
			売掛金	金	15,000	
			前受金	金	13,000	
給	料	79,000	現	金	184,000	
消	費	17,000				
★	当座預金	39,000				
	通信費	4,800				
	引出金	3,200				
★	仕入	18,000				
	支払家賃	23,000				

② 当座預金取引

当座預金	<del>196,000</del>	売掛金	20,000			
	157,000	<del>現金</del>	<del>39,000</del>	★		
		受取手形	37,000			
		資本金	100,000			
★	仕入	16,000	当座預金	<del>296,000</del>		
	買掛金	110,000		218,000		
	支払手形	92,000				
★	<del>現金</del>	<del>78,000</del>				

③ 仕入取引

仕入	<del>134,000</del>	<del>現金</del>	<del>18,000</del>	★		
	100,000	<del>当座預金</del>	<del>16,000</del>	★		
		買掛金	91,000			
		支払手形	9,000			
買掛金	2,300	仕入	2,300			

④ 売上取引

★	<del>現金</del>	<del>85,000</del>	売	上	<del>275,000</del>	
	前受金	36,000			190,000	
	売掛金	132,000				
	受取手形	22,000				

⑤ その他

ア	受取手形	96,000	売掛金	96,000		
イ	買掛金	44,000	受取手形	44,000		
ウ	買掛金	26,000	支払手形	26,000		
エ	貸倒引当金	12,000	売掛金	12,000		
オ	備品	150,000	未払金	150,000		

解き方

合計残高試算表の解き方

今回は、取引ごとに内容と金額が与えられているが、重複しているものがあるので注意しよう。

- ①下書き用紙にすべての仕訳を書く。
- ②重複しているものに取り消し線を引く。
- ③仕訳を答案用紙の横に書く。
- ④合計残高試算表を記入。

②重複しているものを探す方法

▼まず、★をつける

①現金取引から探す

下書きの仕訳に②当座預金、③仕入、④売上勘定があれば、★を付ける。

②当座預金取引から探す

下書きの仕訳に①現金、③仕入、④売上勘定があれば、★を付ける。

③仕入取引から探す

下書きの仕訳に①現金、②当座預金、④売上勘定があれば、★を付ける。

④売上取引から探す

下書きの仕訳に①現金、②当座預金、③仕入勘定があれば、★を付ける。

▼取り消し線を引く

同じ金額の★を見つけ、一つに取り消し線を引く。赤線を引いた分は、相手勘定の合計を減らす。合計に青線を引き、数字を書きなおす。

▼ケアレスミスの確認

星の数が、取り消し線の2倍になる。

★ 10個

— 5個

今回はケアレスミスがないことを確認できた。

合 計 残 高 試 算 表

平成 25 年 1 月 31 日

	借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
+①191,000	108,000	292,000	現金	184,000	+①184,000
+①39,000+②157,000	155,000	451,000	当座預金	296,000	+①78,000+②218,000
+④22,000+⑤ア 96,000	189,000	270,000	受取手形	81,000	+②37,000+⑤イ 44,000
+④132,000	217,000	360,000	売掛金	143,000	+①15,000+②20,000 +⑤ア 96,000+⑤エ 12,000
	200,000	200,000	繰越商品		
+⑤オ 150,000	400,000	400,000	備品		
+②92,000		92,000	支払手形	171,000	79,000 +③9,000+⑤ウ 26,000
+②110,000+③2,300		182,300	買掛金	401,000	218,700 +③91,000
+⑤イ 44,000+⑤ウ 26,000			前受金	44,000	8,000 +①13,000
+④36,000		36,000	( 未払金 )	150,000	150,000
			貸倒引当金	17,000	5,000
+⑤エ 12,000		12,000	備品減価償却累計額	92,000	92,000
			資本金	700,000	700,000 +②100,000
+①3,200	3,200	3,200	引出金		
			売上	275,000	275,000 +①85,000+④190,000
+①18,000+②16,000	131,700	134,000	仕入	2,300	2,300 +③2,300
+③100,000			給料		
+①79,000	79,000	79,000	支払家賃		
+①23,000	23,000	23,000	通信費		
+①4,800	4,800	4,800	消耗品費		
+①17,000	17,000	17,000			
	1,527,700	2,556,300		2,556,300	1,527,700
			未払金		+⑤オ 150,000

解き方

合計残高試算表の解き方

- ①下書きに書いた仕訳を見ながら①から順に、合計残高試算表の勘定科目の横に金額を書き写す。
- ②書き写した仕訳には、斜線を引き、写し終わったことがわかるようにしておく。
- ③仕訳を①～⑤まで書き写した後、合計残高試算表の借方合計、貸方合計を上から順番に埋めていく。青色の部分。  
借方合計 → 貸借対照表+左側合計=解答の金額  
貸方合計 → 貸借対照表+左側合計=解答の金額
- ④さらに借方合計と貸方合計の差額を埋めていく。赤色の部分。
- ⑤最後に一番下の合計欄を埋める。ただし、合計が不一致でも他の問題へ進むこと。簿記は部分点で採点されるため、満点を取る必要はない。時間切れが一番怖いので、採点後に間違った場所をしっかりと復習しておこう。

第4問 (8点)

伝票会計制度には、入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類に分けて起票する3伝票制のほかに、さらに仕入伝票と売上伝票も用いる5伝票制がある。次に示す取引は、5伝票制にもとづいて起票されたものである。この取引を3伝票制で起票する場合、(1)取引を現金仕入と掛仕入とに分解して処理する方法および(2)いったん全額を掛けによる仕入取引として処理する方法の2つがある。それぞれについて、答案用紙における各伝票(略式)の空欄を埋めなさい。ただし、勘定については人名勘定を用いないこと。

仕入伝票	
買掛金	¥395,000
(山梨商店)	

出金伝票	
買掛金	¥24,000
(山梨商店)	

解き方

①仕訳を書く。

仕入 395,000 / 現金 24,000  
買掛金 371,000

②問題文の指示に従う。

(1) 3伝票制…『取引を現金仕入と掛仕入とに分解して処理する方法』

仕入 24,000 / 現金 24,000 ← 出金伝票  
仕入 371,000 / 買掛金 371,000 ← 振替伝票

(2) 3伝票制…『いったん全額を掛けによる仕入取引として処理する方法』

仕入 395,000 / 買掛金 395,000 ← 振替伝票  
買掛金 24,000 / 現金 24,000 ← 出金伝票

③答案用紙の伝票を埋める。

(1)

出金伝票	
科目	金額
(仕入)	(24,000)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(仕入)	(371,000)	(買掛金)	(371,000)

(2)

出金伝票	
科目	金額
(買掛金)	(24,000)

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
(仕入)	(395,000)	(買掛金)	(395,000)

第5問 (32点)

次の決算日に判明した未処理の事項および決算整理事項にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。  
なお、会計期間は1月1日から12月31日までの1年間である。

決算日に判明した未処理の事項

- 1. 現金過不足のうち、¥6,200 は受取手数料の記入もれであることが判明した。残額については原因不明のため、適切な処理をした。
- 2. 仮払金は全額売買目的有価証券の購入金額であることが判明した。
- 3. 買掛金の支払いのために振り出した約束手形¥98,000 が¥89,000 と記帳されていたことが判明したのでその修正を行った。
- 4. 決算日直前に当座預金口座より、当期分の支払利息¥6,500 が引き落とされていたことが判明したが、この処理はまだなされていなかった。

仕訳					
[未処理事項]					
1.	現金過不足	7,900	受取手数料	6,200	
			雑益	1,700	
2.	売買目的有価証券	310,000	仮払金	310,000	
3.	修正処理の下書き				
①	買掛金	89,000	支払手形	89,000	
②	支払手形	89,000	買掛金	89,000	
③	買掛金	98,000	支払手形	98,000	
	買掛金	9,000	支払手形	9,000	
4.	支払利息	6,500	当座預金	6,500	

解き方	
精算表の解き方	
①下書きに仕訳をすべて書く。	
②下書きの仕訳を、精算表の「修正記入」に書き写す。書き写し終わった仕訳には、斜線を引き、写し終わったことがわかるようにしておく。	
③精算表の損益計算書、貸借対照表を埋める。	
1. 現金過不足	
①現金過不足は、精算表の右側(貸方)に残高がある。これを0まで減らすので、左に書く	
現金過不足 7,900 /	
②受取手数料を増やすので、反対側を書く。	
現金過不足 7,900 / 受取手数料 6,200	
③差額が右側なので、雑益を書く。	
現金過不足 7,900 / 受取手数料 6,200	
雑益 1,700	
2. 仮払金	
①仮払金を全額減らすので、右に書く。	
/ 仮払金 310,000	
②反対側に売買目的有価証券を書く。	
売買目的有価証券 310,000 / 仮払金 310,000	
3. 修正仕訳は3ステップ	
①誤った仕訳を書く。	
②誤った仕訳を取り消す。(逆仕訳)	
③正しい仕訳を書く。	
修正仕訳は、②+③を合算させた仕訳。	

## 決算整理事項

1. 受取手形および売掛金の期末残高に対して差額補充法により 2%の貸倒引当金を設定する。
2. 期末商品棚卸高は¥885,000 である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。
3. 建物および備品に対して定額法で減価償却を行う。残存価額はともに取得原価の 10%とし、耐用年数は建物 30 年、備品 10 年である。
4. 売買目的有価証券の期末評価額は¥812,000 である。

### 仕訳

#### [決算整理]

1. **貸倒引当金の下書き**  

受取手形 782,000	}	1,326,000 × 2% = 26,520
売掛金 544,000		
21,000		+5,520
整理前残高		仕訳後の金額 26,520

貸倒引当金繰入	5,520	貸倒引当金	5,520
---------	-------	-------	-------
2. **仕入** 911,000 **繰越商品** 991,000  
**繰越商品** 885,000 **仕入** 885,000
3. **減価償却費の下書き**  

建物 定額法 残 10% 耐 30 年
減価償却費 7,000,000 × 0.9 ÷ 30 = 210,000
備品 定額法 残 10% 耐 10 年
減価償却費 1,400,000 × 0.9 ÷ 10 = 126,000

減価償却費 336,000	建物減価償却累計額 210,000
	備品減価償却累計額 126,000
4. **売買目的有価証券の下書き**  

835,000	→	812,000
整理前残高		仕訳後の金額

有価証券評価損 23,000	売買目的有価証券 23,000
----------------	-----------------

### 解き方

#### 1. 貸倒引当金の下書き

+ 増加額 ※1

決算整理前の残高 → 決算整理後の残高 ※2

※1 損益計算書の貸倒引当金繰入

※2 貸借対照表の貸倒引当金

#### 2. しーくりくりを書く。

#### 3. 減価償却費

× 0.9 の意味は、取得価額のうち減価償却を行う割合を出している。これを耐用年数で割ると、一年あたりの減価償却費が出ることになる。

100% - 残存価額 10% = 90% → 0.9

取得価額 × 0.9 ÷ 耐用年数 = 減価償却費  
 ↑ 減価償却が必要な金額

#### 4. 売買目的有価証券の下書き

△ 減少額 ※1

決算整理前の残高 → 決算整理後の残高 ※2  
 = 時価

※1 損益計算書の有価証券評価損

※2 貸借対照表の売買目的有価証券



5. 消耗品の未使用額は¥18,200 である。
6. 受取手数料の前受額は¥29,000 である。
7. 支払地代は毎月同額を 11 月分まで支払っている。当期の未払額を計上する。
8. 保険料のうち、¥234,000 は向こう 1 年分を本年 3 月 1 日に支払ったものである。

### 仕訳

5. 消耗品の下書き
- |              |         |           |
|--------------|---------|-----------|
|              | +18,200 |           |
| 消耗品          | 0       | → 18,200  |
|              | △18,200 |           |
| 消耗品費 221,000 |         | → 192,800 |
| 整理前残高        |         | 仕訳後の残高    |
- 消 耗 品 18,200 消 耗 品 費 18,200
6. 受 取 手 数 料 29,000 前 受 手 数 料 29,000
7. 支 払 地 代 68,000 未 払 地 代 68,000
8. 保険料の下書き
- |   |     |   |       |   |      |
|---|-----|---|-------|---|------|
| 1/1   | 3/1 | ⑩ | 12/31 | ② | 2/28 |
| ← 12か月 234,000 →  |     |   |       |   |      |
| $234,000 \times (2 \text{月} \div 12 \text{月}) = 39,000$ |     |   |       |   |      |
- 前 払 保 険 料 39,000 保 険 料 39,000

### 解き方

5. 消耗品の下書き
- 精算表の試算表欄には「消耗品」がなく、「消耗品費」221,000 がある。したがって下書きの左の状態である。
- 最終的に消耗品に計上するのは、未使用分だけである。
- ①『消耗品の未使用額は¥18,200』という指示より、「消耗品」が 18,200 になるように調整する。消耗品を増やすので、左に書く。
- 消耗品 18,200 /
- ②反対側に「消耗品費」を書く。
- 消耗品 18,200 / 消耗品費 18,200
- 6.
- ①『受取手数料の前受』であり、受取手数料を減らす必要がある。左に受取手数料と書く。
- 受取手数料 29,000 /
- ②手数料の前受＝「前受手数料」。反対側に書く。
- 受取手数料 29,000 / 前受手数料 29,000
- 7.
- ①『支払地代の未払い』であり、仕訳が何も行われていない状態。支払地代を増やすので、左に書く。
- 支払地代 68,000 /
- ②地代の未払い＝「未払地代」。反対側に書く。
- 支払地代 68,000 / 未払地代 68,000

※経過勘定は、現金が入ってくるタイミングで仕訳を行うので、ズレている部分を決算整理で調整しています。

<参考>経過勘定のご口合わせ『クマのミミ』

ク	マ	ミ	ミ
繰延べ…前払・前受	見越し…未払・未収		

←8 の解説

### 解き方

- 8.
- ①『1 年分を本年 3 月 1 日に支払った』という指示より、保険料の金額に、翌期 1/1～2/28 の保険料が含まれている。この 2 か月分の「保険料」を減らす必要がある。保険料を減らすので、右に書く。
- / 保険料 39,000
- ②前払いした保険料＝「前払保険料」。反対に書く。
- 前払保険料 39,000 / 保険料 39,000
- <保険料の仕訳の流れ>
- ▼3/1
- 保険料を 1 年分支払った
- 保険料 234,000 / 現金 234,000
- ▼12/31
- 決算整理で保険料を 4/1～12/31 の 9 か月分に調整する。また、前払した分は、前払保険料とする。
- 前払保険料 39,000 / 保険料 39,000
- ▼1/1
- 開始仕訳で前払保険料から保険料に振り替える。
- 保険料 39,000 / 前払保険料 39,000